

様式（第5関係）

会 議 録

会議の名称	多摩六都科学館組合緑地等保全懇談会（第4回）
開催日時	平成26年7月15日(火) 午前10時00分から午後12時00分まで
開催場所	多摩六都科学館2階201会議室
出席者	委員：池田 干城、楠本 大、佐藤 留美、須田 孫七、永原 建夫、原 朋子、廣澤 公太郎、町田 三郎（五十音順・敬称略） 参加者：工藤 奈津美（敬称略） 事務局：坂口事務局長、神田管理課長、寺島
議 題	1 開会のあいさつ（事務局長） 2 前回会議録の確認 3 緑地の整備保全方針について 4 駐車場設計案について 5 その他
会議資料	資料1 多摩六都科学館の緑地の整備方針（修正案） 資料2 多摩六都科学館組合緑地等保全懇談会（第3回）会議録 資料3 土地利用構想図 参考1 緑地のゾーニングプラン 参考2 緑地のゾーニングプラン（詳細）
会議内容	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
発言者名	発言内容 (別紙 会議内容の要点 参照)

◎会議内容の要点

議題1 省略

議題2 会議録の確認

- ・雑木林（ぞうきばやし）とざつぼく林の違いは、雑木林は「明治以降、農業中心の時代に炭・薪を作るためのもの」、すなわち人が利用するために人工的につくられたもの、という意味であると解釈し、一方ざつぼく林は知らない間に色々な木が生えてくる、そこにひとつの植生が形成される場所であるものとする。今回この施設につくるのは照葉樹林の復元であると解釈していくことを皆で再確認した。
- ・武蔵野の自然の定義については、新田開発していたころの木々に戻るイメージ。木と人間が関わり始めた頃（江戸にクヌギ・コナラを植え始めた頃）の武蔵野の再現ということを確認。ルーツはこの辺りの時代のものにしたい。
- ・クヌギ・コナラだけを植えても他の木々も自然に生えてくる。それを伐る・伐らないの問題は大きいですが、ある程度自然の競争に任せてもよいのではないかと。
- ・昔がどうだったのか、ではなく今がどうなのかを見せていくのも科学館らしいのではないかと意見が出た。この限られたスペースに行き届いた雑木林を作ることは難しい。しかしながら、草地があればどんな生き物がいてどんな植物が出来るかという変化をみせる場所（ビオトープ）であることは可能ではないかと。

議題3 緑地の整備方針について

- ・緑地のゾーニングプランであるが A ゾーンについては基本的に高木を残し危険性・日当たり等を考慮し、適宜伐採していく。E ゾーンについては水辺の環境を作る方向で話が進んでいたが管理・維持が大変難しく現実的ではないところがある。休憩室の前の B ゾーンは多少目隠しになるようにイロハモミジのような中高木を少し植え、目線部分だけを遮り、全体の景観は損なわないようにすることができれば理想である。C ゾーンと D ゾーンについてはざつぼく林を念頭において整備していくエリアである。高木を伐採し、2～3年かけて草地化していくイメージである。5～6年経ったときにさらに区分けをし、順番に手入れをしながら多様な環境・表情を見せることができるエリアにしたい。この場所にフ

	<p>ットパスをつくる構想は残してほしい。Fゾーンには匂いのきついハンカチの木ではないもので木陰を作ることができたらよいと思う。山桜などがよいのではないのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館庭東側は「武蔵野学習広場」とすることをめざし、高木は伐採する一方、多種の雑木を共生させる。ゾーニングをして管理し、フットパスを設ける。管理としては学習活動主体の維持管理をめざす。Aゾーンの南側を切り離し、Cと同じような扱いをする。イメージとしてはCとDが同じになりその中にAの南側も含むようになる。科学館の敷地の境界のあたりに畑を作る予定である。フットパスを作る際は子ども一人通れるくらいのスペースでも良いが、たくさんの人が通ると道が広がってしまうので、必要以上に広くしないために綱等を張るなどの策も必要になるかもしれない。また、フットパスをトイレの手前から作らないと近道にされてしまうので、フットパスとトイレの場所は再考すべきである。ビオトープは、今あるものをなくすことはしないが、後に必要が生じたときに改良し、作っていく予定。 ・新設駐車場は緑化部分を多くとった空間づくりをめざす。夜間は人が入らないように門を閉めるなどセキュリティに気を配ることも必要。 ・館庭西側は憩いのエリアとなるようなスペースをつくり、新設のバス停も緑地と調和したものを作る予定。ハンカチの木の匂いが好ましくないので5市のシンボルツリーに代えた方がよいのではないのか。 ・市民が育てる学習広場としては苗木の保護、植樹などの手入れに関し、一部市民に参加してもらうような形をめざす。 ・管理がしやすく、外来種ばかりではなく日本固有の木も取り入れたい。目隠しにできるような木などを選んで欲しい。 <p>議題4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの場所を緑地側にずらすことはできないか。休憩室から少しでも見えにくくしたい。 ・駐車場はなるべく地面の緑化を試みたいが、バスが入るところだけは緑化ができずアスファルト舗装になる。 ・近隣の民家との境には景観と防音・騒音に気を配った対策をするべきである。 ・費用の問題もあるかもしれないが、アスファルトによる温度上昇と透水性の問題を考えると他の材質が好ましいのではないのか。 ・フェンスを作る場所も安全面等を考え再確認するべきではないか。
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルカムサインが欲しい。雑木林と一体感のある素材で作ったらどうか。 ・「市民とともに育てる学習広場」については沢山の樹木を伐採する前になぜ木を伐るのかを子どもたちに説明できるチャンスがあった方がよいのではないか。いきなり伐ってしまうと子どもたちがびっくりし、ショックを受けてしまう可能性もあるし、逆によい学習材料（大掛りな実験）にできる。
	<p>議題5 「整備保存方針」については、修正案を管理者に懇談会の報告をする。この報告を持って本懇談会は終了とする。</p>